『文芸倶楽部』小説総目録　その六（明治39年～40年）

山根賢吉編

第十二巻第一号（明治39年1月1日発行）

紙子くらべ　江見水蔭　1～58
小俳優　生田葵山　59～91
亡き母　広津柳浪　92～108

懸賞小説

白百合　黒河内桂林　109～139
白壁滝閑頓　140～174

（注）「小俳優」は内題に「せうはいいう」とルビがあり、「懸賞小説」は、一、二等。〈さつろく〉に、竹の屋主人の「珍草通」、小波の「馬背大尽」があり、〈しばゐ〉に、川上音二郎の「正劇の由来」がある。

第十二巻第二号　定期増刊　芸人出世譚（明治39年1月15日発行）

冒頭の「芸術の神聖」に「本号は現時有名なる芸術家の苦心談成功談失敗談を記述し、芸界に亙れる有ゆる諸家を網羅し…」とあるように、八十九名の芸人をとりあげているが、その一部を示せば左記の通りである。

中村芝翫（俳優）　三遊亭円遊（落語）　川上音二郎（俳優）　竹本組広（女義太夫）　春本秀吉（芸妓）　常盤津林中（常盤津大夫）　邑井一（講談）

第十二巻第三号（明治39年2月1日発行）

大那破烈翁　長田秋涛　2～69

夫婦仏　宮崎湖処子　70～100

懸賞小説

盲士官　山本柳風　101～125

かゝり人　野村重雨　126～154

（注）「大那破烈翁」は、内題に「創史」の角書があり、「だいナポレオン」のルビを付す。「懸賞」は一、二等。〈時文〉に、桂月の「日蓮と芦原将軍」、〈おはなし〉に、田中霜柳の「桜痴居士の作劇談」、鶏口生速記の「貞奴の韓国婦人観」、〈うきよ〉に、海老庵主人の「官妓学校」、〈さつろく〉に、近藤蕉雨の「花柳史上の桜痴居士」がある。

第十二巻第四号（明治39年3月1日発行）

創作　仙台平　川上眉山　2～10

盗人の娘　山田旭南　11～45

犬鬼灯　泉斜汀　46～106

懸賞小説

新婚旅行　橋本翠泉　107～143

雨期晴　前川紫山　144～176

（注）「懸賞」は一、二等。〈おはなし〉に、露伴の「排万能主義と見神説」、〈しばる〉に、松葉道人の「モンナ・ヴンナについて」がある。

第十二巻第五号（明治39年4月1日発行）

不浄金　広津柳浪　2～31

浮まくら　正岡秋子　32～68

殉教者　小川煙村　69～104

懸賞小説

傀儡　増田御風　105～133

うしろ姿　山田萍南　134～162

（注）「殉教者」は脚本。「懸賞」はいずれも二等。〈おはなし〉に、渋柿の「維新前後の文学」、〈しばる〉に、野口米次郎「米国に於ける滑稽劇」、〈うきよ〉に、蕉雨の「昔噺新吉原」、〈さつろく〉に、三昧「飽書翠説」、匂牙利ベーテヒ作　鹿又香琴訳「駆落」がある。

第十二巻第六号　定期増刊　明治畸人伝（明治39年4月15日発行）

冒頭に「畸人辨」と題して、「明治の昭代、三十余年間、五千万人中、各方面に、天の君子即ち畸人は、ない事はない。大小高下は、其人の天分と、境遇に因て相違はあるが、

其畸たるに於ては其揆一なりである。」とあり、合計五十人の伝を記す。その一部を左に記す。

渡辺国武子　墨上人
中根香亭先生　岸上質軒
副島種臣伯　さいとう
田中正造翁　堀紫山
品川楼野晒　眠花醉士
田中館愛橘氏　日東生
中江篤介氏　祭刀庵
松迺家露八　野武士

事（小説「破戒」を手にして）」、あうたう「単行本発刊の動機と『破戒』」、〈うきよ〉に、無名氏述「名士と歌妓（新橋夢物語）」、〈ざつろく〉に竹貫佳水の「亡友大沢天仙師」がある。

第十二巻第八号（明治39年6月1日発行）

四郎高綱　山田美妙　2～46
再犯　海賀麥哲　47～92
みだれ　小山内八千代　93～151
歌舞伎座六月狂言　平重衡　榎本破笠　152～188

懸賞小説

水煙　原貝水　189～218

（注）「懸賞」は二等。〈おはなし〉に、山口定雄の「壮士劇の旗揚」、〈しばゐ〉に、故花房柳外の「楽劇と純劇と」、〈うきよ〉に、無名氏述の「名士と歌妓（新橋夢物語）」がある。

第十二巻第七号（明治39年5月1日発行）

釜煮　塚原渋柿　2～34
片羽鳥　西村醉夢　35～77
写真小説　篠山吟葉　78～100

懸賞小説

涙多摩川　児島晴浜　104～136
流転英蝶花　137～168

（注）「懸賞」は、一等、二等。〈おはなし〉に、雪中庵雀志の「吉原の今昔」、〈時文〉に、外史子の「文壇近来の快

第十二巻第九号（明治39年7月1日発行）

臆病者　小栗風葉　2～73
水の町　竹貫佳水　74～118

叙事 葉平蜆　山岸荷葉　119～157
懸賞小説
面影橋　松本琴潮　158～187
愛の焔　小田銀兵衛　188～216

（注）「懸賞」は、一、二等。〈うきよ〉に、「老探偵実話『函師』」、無名氏述「名士と歌妓（新橋夢物語）」、〈しばゐ〉に、鬼太郎の「劇界革新案」がある。

第十二巻第十号　定期増刊　新講談　太閤記（明治39年7月15日発行）

「講談」特集号で、目次のみを記す（該当ページは省略）。

生立ち　正流斎南窓
青年時代の藤吉郎　西尾麟慶
間違ひの婚礼　宝井琴凌
笠寺、鳴海落城　一龍斎貞山
長短の槍仕合　真龍斎貞水
桶狭間合戦　猫遊軒若円
美濃攻め　清草舎英昌
本能寺の夜襲　邑井貞吉
中国引返し　神田伯山
山崎の弔合戦　宝井馬琴
大徳寺焼香　放牛舎桃林
賤ヶ嶽　昇龍斎貞丈
海内平定　小金井芦州
朝鮮征伐の船出　桃川如燕
碧蹄館南大門の奇捷　神田松鯉
与治兵衛濯の危難　邑井一
太閤の臨終　猫遊軒伯知

（注）〈雑録〉に、真狼山人の「円朝追懐録」、須藤南翠の「江戸の夢大阪の夢」、泉鏡花の「お弁当三人前」、武田桜桃・石橋思案の「恋の豊太閤」がある。

第十二巻第十一号（明治39年8月1日発行）

鯨歌　江見水蔭　2～68
叔母村　武田桜桃　69～97
叙事 仙台平　川上眉山　98～120
懸賞小説
少年の煩悶　森岡蹊外　121～156
縺れ糸　橋本紫星　157～188

（注）「仙台平」の冒頭に、「本篇は去る三月一日の本誌第

十二巻第四号に、僅に其の頭を示せしものなりしが、今や著者の病ひ癒え、本号に其の首尾を全からしむるに当り、既載の分を本号に再録する事となしぬ、読者諒せよ。」とある。「懸賞」は一、二等。〈時分〉に、桂月の「世態批判（一）」（一、黒田家事件、二、「東亜の光」事件）、「男女交際」、天溪の「故（ばばあ）ヘンリック・イブセン」、〈しばゐ〉に、岡鬼太郎の「劇界革新案」、〈うきよ〉に「のろけ箱」、〈ざつろく〉に、松葉道人の「新嘉坡（シンガポール）の二冒険」がある。

第十二巻第十二号（明治39年9月1日発行）

祖国（パトリー）	田口掬汀訳	2～90
材料商売	海賀変哲	91～132
懸賞小説		
親ごゝろ	秋香散史	133～142
職工長	児島晴浜	143～150
柳月夜	意智楼	151～160
くもり日	瀬戸新声	160～167
伊庭如水	宜山人	167～172

（注）「祖国」の内題には「パトリー」とルビを付し、「『祖国』は仏国翰林院の学士にして現代欧洲第一流の劇作家たるビクトリアン・サルドウ氏の傑作なり。」とあり、人名はすべて日本名で、「忠実に逐語訳を試みたるに非ず」とある。「材料商売」の内題には「たねしやうばい」とルビを付す。「懸賞」は「過般より短編十五枚以下を募集」とある通り、すべて短編で、「親ごゝろ」と「職工長」が二等、他は三等である。「柳月夜」の内題の作者名は「神田意地楼」、「伊庭如水」の作者名は「前田宜山人」、〈おはなし〉に、泣花情史の「うつせ貝（秋波子の逸話）」、〈ざつろく〉に、松葉道人の「新嘉坡の二冒険」、斜汀の「青異人」がある。

第十二巻第十三号（明治39年10月1日発行）

老音楽家	徳田秋声	2～41
遠音の笛	依田秋圃	42～67
凄艶	ツルゲーネフ作 昇曙夢訳	68～101
懸賞小説		
しら浪	長尾紫狐庵	103～112
神経家	森岡騒外	112～122
わかき心	柳岡雪声	122～130
森の黄昏	岡田美知代	130～136

ふりわけ髪　高橋嚶々軒　136～140
比翼くづし　寺田麗花　141～148

（注）「懸賞」は、「しら浪」が一等、「神経家」と「わかき心」が二等、以下三等。〈時文〉に、柳葉の「天声馬声」があり、その中で「△現今文壇の流行児として夏目漱石あるを知る。而して漱石の名の大に有難がらるゝを知る。されど知ると思ふとは別問題也。」「△新作草枕、鏡花の書きさうなものといふは漱石を敬重したる意なり」などと述べている。〈ざつろく〉に、小波の「鹿島藩の記」、荷風の「長髪」、松葉の「新嘉坡の二冒険」がある。〈きのふけふ〉に、十一号に掲載した「のろけ箱」が風俗壊乱として告発された経緯と判決文が記されている。

第十二巻第十四号　定期増刊　講談落語　古今美人揃（明治39年10月15日発行）

題名と筆者名のみを記す。

振袖火事　邑井一
三年目　三遊亭円喬
局松島　一龍斎貞山
辨天おふぢ　三遊亭小円朝
羽子板娘　西尾麟慶
姫かたり　三遊亭円遊
仙台高尾　清草舎英昌
夢の瀬川　柳家小さん
中将姫　宝井馬琴
重菊　橘家円蔵
浅妻船　神田松鯉
袈裟御前　三遊亭遊三
京の揭巻　猫遊軒伯知
白薩摩　三遊亭円右
会津小町　真龍斎貞水
猫退治　三遊亭金馬
小判のお燥　神田伯山
恨の写真　三遊亭円左
因果お町　昇龍斎貞丈
紺屋高尾　燥花楼馬楽

（注）〈ざつろく〉に、黒仙爺の「吾輩は下戸である」、無髯公子の「美人八面観」がある。

第十二巻第十五号（明治39年11月1日発行）

秋晴	田山花袋	2～57
辨慶最期	岡鬼太郎	58～74
猪之吉	故花房柳外	75～135
懸賞小説		
寂寥	橋本紫星	137～146
思ひざめ	瀬戸新声	146～154
密売薬児	松信春秋	154～163
偲ヶ嶽	松美佐雄	163～171
驕兵	高橋嚶嚶軒	171～180
二度の恋	児島晴浜	180～188

（注）「秋晴」の内題に「しうせい」のルビがある。「辨慶最期」と「猪之吉」は脚本。「猪之吉」の内題には「テニソン『イノック・アーデン』翻案」の副題がある。「懸賞」は「寂寥」が一等、「思ひざめ」が二等、他は三等。〈おはなし〉に、天涯茫々生の「朝鮮奇談」、〈うきよ〉に、魯痴心の「倫敦の魔界」がある。

第十二巻第十六号（明治39年12月1日発行）

福神揃	饗庭篁村	2～39
女の心	正岡秋子	40～84
毒壺	西村醉夢	85～117
明治大勝利	白金廼街人	118～148
懸賞小説		
盤船街道	本多はる子	149～158
江上の客	井上朝歌	158～167
慈善家	森岡騒外	167～176
津軽富士	高橋嚶々軒	176～181
姑ごゝろ	岡田美千代	182～187
やま福祥	松美佐雄	187～196

（注）「懸賞」は、「盤船街道」が一等、「江上の客」「慈善家」が二等、他は三等。〈おはなし〉に、天涯茫々生は「朝鮮奇談」を連載。「第四十六回懸賞小説」の題で、石橋思案と武田桜桃の名で、「来春一月の誌上から、当分誌面の単調を破る為め、一面投書家諸君の修養に資せんが為め、一先づ懸賞小説を休む事」を報じ、巻末の〈きのふけふ〉に、武田桜桃の退館と、その後任として海賀変哲の編集部入りを報じている。

第十三巻第一号（明治40年1月1日発行）

霊象	泉鏡花	2～79

劇　道　楽　海賀変哲　80～128
色懺悔戦場之巻　紅葉山人原著　山岸荷葉脚色　129～142
裏　座　敷　川上眉山　143～165
メスメリズム　伊臣紫葉　166～180

（注）〈忙中閑〉に、水蔭の「『色懺悔』上場に就て」、算邨の「蜀山人と銅脈、蕪坊」、海賀変哲の「桜桃詞兄を送る」がある。

第十三巻第二号　定期増刊　義士銘々伝（明治40年1月15日発行）

題名と筆者名のみを記すと、

大石内蔵之助　一龍斎貞山
堀部弥兵衛　猫遊軒伯知
速水藤左衛門　宝井馬琴
矢頭右衛門七　西尾麟慶
不破数右衛門　清草舎英昌
間十次郎　真龍斎貞水
勝田新左衛門　放牛舎桃林
武林唯七　猫遊軒若円
大高源吾　邑井一
間瀬孫九郎　桃川如燕
杉野十平次　神田松鯉
岡野金右衛門　邑井貞吉
矢田五郎左衛門　昇龍斎貞丈
潮田又之丞　一立斎文車
堀部安兵衛　宝井馬琴
神崎与五郎　神田伯山

（注）「堀部安兵衛」の作者名は内題では「宝井琴窓」になっている。〈さつろく〉に、富永沙鷗の「美人とは何ぞ」、山田馬太郎の「京都花柳界の呪詛（まじない）」がある。

第十三巻第三号（明治40年2月1日発行）

火　薬　工　場　生田葵山　2～80
破うつ波　斎藤紫軒　81～121
金　秀　蘭　泉　斜汀　122～166

（注）〈活社会〉に、丁半生の「外人の賭博（横浜居留地の闇黒面）」、〈落語〉に、三遊亭円右の「文七元結」がある。

第十三巻第四号（明治40年3月1日発行）

つぎ紙子　江見水蔭　2～63

恋看板　山岸荷葉　64～121

劇恋 斧の福松　岩野泡鳴　122～168

劇喜 一人合点　福田琴月　169～190

（注）〈活社会〉に、天涯茫々生の「足尾銅山の坑夫」、〈三十棒〉に、山本柳葉の「鉄火録」、〈演芸界〉に、関根黙庵の「嗚呼角藤定憲君」がある。

第十三巻第五号（明治40年4月1日発行）

板橋記　遅塚麗水　2～31

死屍伝　大倉桃郎　32～98

最貧者　篠原嶺葉　99～156

魔もの北村馬骨　157～190

阿新九　岡本綺堂　191～207

（注）「阿新九」は脚本で、内題は「阿新丸」、「くまわかまる」のルビを付す。〈三十棒〉に、中島孤島の「家庭と読物」、正宗白鳥の「衣服の専横」、〈活社会〉に、まけんの「浅草公園六区の観覧物」、色眼鏡の「浅草の魔界」がある。

第十三巻第六号　定期増刊　落語十八番（明治40年4月15日発行）

題名と筆者名のみを示すと、

成田小僧　三遊亭円遊

猫久　柳家小さん

唐茄子屋　三遊亭円右

小烏丸　桂文治

うそつき弥次郎　橘屋円蔵

猿後家　桂文左衛門

よかちよろ　三遊亭遊三

関津富　柳亭燕枝

三十石　三遊亭円喬

柿取　曽呂利新左衛門

お祭佐七　春風亭柳枝

お文様　三遊亭小円朝

名奉行　桂文枝

芝浜の革財布　三遊亭金馬

松竹梅　柳亭左楽

天災　三遊亭円左

三人旅　蝶花楼馬楽

子宝　三遊亭円馬

（注）〈雑録〉に、真猿山人の「如何にして落語家となりしか」があり、円遊ら十五人をとりあげている。

第十三巻第七号（明治40年5月1日発行）

晩年　田口掬汀　2～81
反響　宮崎湖処子　82～103
時の力　武田桜桃　104～180
袖袂　岩田烏山　181～194

（注）「反響」の内題には「エコー」のルビを付す。〈三十棒〉に、長谷川天渓の「砂ぼこり」、〈活社会〉に、山田春塘の「博覧会と雇女」、近藤蕉雨の「際物商売」がある。

第十三巻第八号（明治40年6月1日発行）

不老術　塚原渋柿　2～23
小歴史家　西村酔夢　24～67
終馬　山田旭前　68～111
敗将　長野晴浜　112～185

（注）〈三十棒〉に、薄田斬雲の「ヨボ記」がある。

第十三巻第九号　博文館創業二拾週年記念増刊　ふた昔（明治40年6月15日発行）

二筋川　饗庭篁村　1～32
観劇の還暦　幸堂得知　33～72
行春　須藤南翠　73～106
姫百合　山田美妙　107～132
蛇窪の踏切　江見水蔭　133～180
浪花潟　渡辺霞亭　181～216
並木　島崎藤村　217～242
八年前　田山花袋　243～278
廊下の君　泉鏡花　279～287
石蕎薇　巌谷小波　288～315
老嬢　遅塚麗水　316～332
妥協　柳川春葉　333～360
窮死　国木田独歩　361～371
夜叉　徳田秋声　372～388
新粧法　塚原渋柿　389～402
敵艦砕筑紫神風　宮崎三昧　403～439
横鑓　幸田露伴　440～467
見合ひ　広津柳浪　468～497
明眸　川上眉山　498～509

蓋痛快　石橋思案　510～539

（注）各作品の最初のページに作者の写真を掲げている。「観劇の還暦」の内題には「見聞実話」の角書が、「石薔薇」には「新話」、「敵艦砕筑紫神風」には「脚本」、「蓋痛快」には「笑話」の角書があり、その他にはすべて「小説」の角書がある。「夜叉」の下に（ザッヘル、マゾッホ）とあり、翻訳と考えられる。「新粧法」の最初に「記者曰、本篇は本誌前号巻頭に掲げたる、『不老術』の後篇なり」とある。また、「敵艦砕筑紫神風」には「あだをくだくつくしのかみかぜ」のルビが、「蓋痛快」には「けだしつうくわい」のルビがある。〈雑録〉に、青木秀峰の「紅葉氏と下駄」がある。

第十三巻第十号（明治40年7月1日発行）

復讐	押川春浪	2～36
わたり鳥	中嶋孤島	37～77
詰将棋	田村西男	78～169
劇史 片われ月	斎藤紫軒	170～201

（注）「わたり鳥」の内題の作者名は「中島孤島訳」とある。〈活社会〉に、白衣生の「看護婦総まくり」、〈忙中閑〉に、野村菫雨の「霧雨」がある。

第十三巻第十一号（明治40年8月1日発行）

平民の娘	三島霜川	2～54
母の恋	正岡秋子	55～73
滝の音	黒河内桂林	74～106
劇音 新式青表紙	山田芝園	107～131
劇史 忠盛	原田東洲	132～143

（注）「母の恋」の最後に（モーパッサンより）とあり、翻案か。〈三十棒〉に、月城閣主人の「文士易断」があり、〈活社会〉に、紫狐庵の「氷店」、岡本霞城の「露店の今昔」がある。

第十三巻第十二号（明治40年9月1日発行）

星月夜	宮崎三昧	2～58
荒涼海賀変哲		59～112
ありし世の恋	馬場清唱	113～197

（注）「星月夜」は脚本。〈三十棒〉に、山本柳葉の「ラム子の泡」、〈活社会〉に行々子の「女看守の行方」がある。

第十三巻第十三号（明治40年10月1日発行）

小膽者	柳川春葉	2～55
覚醒	宮本天筒	56～105
破畳	山岸荷葉	106～172
朝日ひとり娘	栗島狭衣	173～188

（注）「ひとり娘」冒頭に、「附言」として、「喜劇『ひとり娘』は露国文豪ツルゲ子ーフの傑作たる喜劇『朝餐』の骨子を借り、全く一篇の趣向を改作したるもの」とある。

〈三十棒〉に、大町桂月の「時文」、柳葉の「胃腑問題」、〈活社会〉に白面楼の「諏訪の工女」がある。

第十三巻第十四号　定期増刊　諷怪談揃（明治40年10月15日発行）

題名と筆者名のみを示す。

江島屋	三遊亭円喬
雨夜の傘	錦城亭典山
おすわどん	桂文治
幽霊証文	神田伯山
捻兵衛	三遊亭円遊
小幡小平次	一立亭文慶
染分手綱	林家正蔵
釣天井	西尾麟慶
毬栗	三遊亭円左
蛤吸物	邑井一
お縫の火	柳亭燕枝
紅葉上人	神田松鯉
お化長屋	橘家円蔵
四谷怪談	桑々斎桃葉
乳房榎	三遊亭小円朝
江戸節お紺	一龍亭貞山
仙台屋	三遊亭円右
実説皿屋敷	猫遊軒伯知
幕見	柳家小さん
丸善怪談	真龍斎貞水

（注）「小幡小平次」の内題の作者名は「一立斎文慶」、〈雑録〉に「怪談百物語」がある。

第十三巻第十五号（明治40年11月1日発行）

破倫	川上眉山	2～39
貞操	三島霜川	40～57

鳥なき里　泉斜汀　58～115
若き生命　山崎紫紅　116～174
（注）「若き生命」は脚本。〈三十棒〉に、大町桂月の「時文」、柳葉の「文界時事」、〈活社会〉に、鼠法師の「お法衣師」がある。

第十三巻第十六号（明治40年12月1日発行）

晴又雨　江見水蔭　2～55
謎　武田桜桃　56～114
しらねあふひ　北里龍堂　115～167
（注）「しらねあふひ」は脚本。〈三十棒〉に、長谷川天渓の「文芸雑感」、〈活社会〉に、案山子の「貴婦人と俳優」、老脚夫の「郵便商売」がある。

本目録の作成にあたっては、架蔵誌のほか、国立国会図書館・日本近代文学館・東京大学中央図書館所蔵誌によった。